

終戦前後に於ける才三十七軍（ボルネオ）の概観

1. 作戦経過の概要

才三十七軍は昭和十九年九月、ボルネオ守備軍より改編されたもので、従来の独立守備歩兵二大隊より逐次兵力を増加せられて同年概略次の如き兵力配備となつた。

- タ　ワ　オ　混成一旅団（歩兵五大隊）
 - サンダカン　歩兵三大隊（混成）
 - タウイタウイ島　混成一連隊（歩兵二大隊）
 - タ　ダ　ツ　歩兵一大隊
 - ミ　　　　　歩兵一大隊
 - タ　　　　　混成一旅団（編成未完にして歩兵一大隊半）
- 以上計、歩兵十三大隊半で、別に独立機関銃二大隊、（内一大隊は一部の歩調着）を有して居た。

0557

十九年末、夏に南ボルネオを作戦地域に入らしめられ、タラカン海軍
 警備隊及バリツクババン附近海軍基地部隊を軍の指揮下に入らしめら
 れると共に、新に軍の轄下に入つた歩兵二大隊をタラカンに配備した。
 昭和二十年一月、兩方軍の命令により配備の重点をボルネオ西海岸に
 転移することとなり、タワオより歩兵一大隊を南ボルネオに、歩兵三
 大隊を北ボルネオ西海岸に移動せしめると共にタウイタウイ島の歩兵
 二大隊及サンダカンの歩兵二大隊を、同じく西海岸に転用した。
 總軍の命令に基く兵力の配備計画左の如くであつた。

- | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|---------------|-------|----|------------------------|---|---|----|---------------|
| タ | ワ | オ | 歩兵一大隊 | | | | | | | |
| サン | ダ | カン | 歩兵一大隊 | | | | | | | |
| タ | ダ | ツ | 附近 | 歩兵一大隊 | | | | | | |
| ア | ビ | 附近 | 混成一連隊 (歩兵三大隊) | | | | | | | |
| ブル | ネイ | 湾 | 周 | 辺 | より | 独混一旅団 (歩兵四大隊) 及独立歩兵一大隊 | | | | |
| タ | チ | ン | ・ | ナ | ツ | ナ | 群 | 島 | 附近 | 独混一旅団 (歩兵四大隊) |

0557-2

パンジエルマシン附近

歩兵一大隊半

バリツクババン

歩兵半大隊及海軍根拠地隊

タラカン

歩兵一大隊 海軍警備隊

右に關し、東海岸及兩ボルネオ方面は二月下旬頃までに概ね新配備を終了し得た。西海岸方面は海上交通社絶の爲、東海岸より陸路転送するの止むを得ないこととなり、一月末より行軍を初め、ボルネオ中部の脊稜山脈を横断し、三百乃至六百軒に亘る峻険且不毛の山地帯を徒歩転進した。途中天候の悪化と糧秣の不足とのため多大の兵員の損耗を來たし、其の先頭は二月末アピ附近に到着したが、六月始、敵の上陸時頃までに西海岸に到着したものは全兵力の約半数に過ぎず、其の大部は、途中激蕩疾病の爲難れ、又、疲労病慮の爲遲留し、到着せる者も疲労とマラリヤとの爲、大半は戦闘に堪えず、然も輸送の困難に依り、兵器資材の大部を途中に擱置せるため其の戦力は極めて微々たるものであつた。クチン方面は、海上輸送が困難のため、歩兵約一大隊を維持し得たのに過ぎず、此の關係上輸送は敵の妨碍のため至大困難

0557-3

難と見り、五月下旬頃よりは益々絶絶するに到り、昭南方面よりの補給資材はタチンに滞貨し、北部ボルネオに於ては兵器資材の不十分、糧食衛生材料等不足のため多大の困難に陥ることとなつた。敵は、同月始め、タウイタウイ島に上陸し、同島に在つた海軍警備隊の一部は玉碎する所となり、次いで、同月末には遂にタラカンも優勢なる敵に圧倒せられるに至つた。同地指揮官香春海軍中佐以下之を遺棄奮闘したが、利なく、五月中旬、悲愴なる訣別の辭と共に通信は絶絶し、爾後金員遂に玉碎するに至つたのである。六月上旬、敵は更にラプアン島に來攻し、同時にブルネイ、ミリ、次いでポーホート方面にも上陸攻撃し來つた。ラプアン島守備大隊長奥山大尉以下約五百名は、殊死奮闘に努め遂に玉碎した。ブルネイ方面に於ても亦能く健闘し佐藤大隊長以下同大隊の主力を失うに到つたが、遂にブルネイ附近の確保は困難となり、同地指揮官旅団長明石少將は軍の予め内承せる意向に基き爾余の部隊及軍政機關在留邦人及婦女子等約一〇〇〇を率いて軍司令部と合する為

六月中旬転進を開始し、途なき山地を踏破して、約四十日の後テノム
附近に到着した。

ミリ地区に於ては、敵は六月十日頃より艦砲射撃を行うと共に、二十
日頃ルトン附近に上陸を開始し、同地守備隊は力戦敵の進出を阻止す
ると共に海岸附近の保持困難となるや、同方面指揮官相京大佐は主力
を以てミリ東側地区を保持し、之れに損害を与えつつ其の態勢を以て
停戦時に到つた。

ラプアン、ブルネイ及びミリ方面については、敵上陸と共に通信が杜絶
し、運時状況を手し得ず、軍として適切なる指揮を為し得なかつた
のは、甚だ遺憾とする所である。

ポートポート附近は、最初東海岸より転進する歩兵一大隊を配備する予
定であつたが、未だ其の到着を見ない中に敵の攻撃を受けるに到つた
ので、同地附近に滞留して居たブルネイ及びテノム方面へ転進途中の部
隊と並に爾後後方より追及せる部隊等を糾合して集大成隊を編成之
れと對峙し、隘路口附近に敵を拒止して停戦時に到つた。

軍

0559

ラブアン、ブルネイ、ミリ及ポート附近を攻撃した敵は濠才九^六師
 團で、蘭記地区の他、停戦時、其の一部はアビ近く進出した。
 此の間、六月末、敵はバリツクバパン附近に上陸を開始し、蘭方面指
 揮官兼田海軍中將以下之を遠撃して本際附近に於て相当の打撃を与え
 た。爾後優勢なる敵の圧迫を受けつつバリツクバパン北側地域を保持
 し、敵と対戦中停戦となつた。当方面の敵は、濠才七師団で当初タラ
 カンに上陸したものである。停戦時ボルネオの才三十七軍は、軍司令
 官馬場正郎中將統率の下に、独立混成才五十六、全才七十一の兩旅団
 があり、才七方面軍司令官の指揮下に屬して居た。而て、部隊は、タ
 ワオ（歩兵約一大）、サンダカン（歩兵約一大）、アビ（歩兵約二大）、
 ラナウ、ケエン、コウ、チノム、サボ^{11MB}各附近（軍司令部及^{56MB}主力）、
 ミリ（歩兵一大、燃料廠）、タチン^{10MB}及^{10MB}各主力、ポンチャナツ
 タ（歩兵一大）バンジエルマシ（歩兵約一大）、バリツクバパン（海
 軍）等小部隊に分散し、然も前述の如き状況下、混濁錯綜すると共に、